高１・高２ ハイレベル数学B+C（ベクトル）を受講する皆さんへ

ようこそ，スタディサプリ 高１・高２ハイレベル数学Ｂ+Ｃ（ベクトル）の講座へ。この講座は

「基本問題だけではなく，応用問題を自力で解けるようになりたい」

という人に適した講座となっています。

数学Ｂ+Ｃ（ベクトル）では，高校数学の根幹とも言える内容を学習します。この講座では，それまでに学び，また標準的な問題を解くことで自分のものになったはずの知識・技能を振り返りながら，その活用の仕方を，問題を通じてじっくり深く学んでいきます。

この講座を受講いただくことで，知識・技能のもつ意味や，その使い方，使う場面を体験することができます。また，なぜそういった手法を取るのか，それによって何が解決できるのか，を学ぶことで，解法に対する納得感が高まります。そのため，解法を丸暗記する必要がなく，さらに，今後の学習で出会う様々な問題の中で広く使える数学的な見方・考え方が身についていきます。この講座を通じて数学Ｂ+Ｃ（ベクトル）と新たな気持ちで向き合うことで

「なるほど，そういうことか！」を積み重ね，自分の成長を実感する

ことができると確信しています。

「人から人へ」。それは時代がどんなに進歩しても変わることがありません。スタディサプリの講師は，いつでも「あなた」が真剣に学びに向かう姿を思い浮かべながら授業をしています。あなたが本気で講師から学び，学んだことが何だったのかを考え，問題を通じてそれを確認し，自分のものにする，そういった一連の体験をこの講座を通じて提供いたします。そして，あなたがそうして得たことを，様々なアウトプットを通じて，今度はあなたが誰かに伝えていただきたいと思います。

講義を１回受けてわからなければ，何度でも，自分のペースで講義を見返すことが可能です。ただし，最初から完璧な理解を目指す必要はまったくありません。まずは「たぶんこういうことなんだろうな」といったように，全体像をざっくり捉えることから始めましょう。その状態で先に進み，前に学んだ知識・技能や解法の一部または全部を使うことで，その真意がわかる，というのも数学ならではですし，気になった時点で前に戻り，改めて理解を深める，ということも可能です。その学び方やペースは，他の人と比較する必要はありません。

学びにおいて，主役は「あなた」です。

あなたの，あなたならではの学びを，この講座が力強くサポートします。ようこそ『スタディサプリ』の世界へ！

山内　恵介

目次

第１章　数列

第１講　等差数列，等比数列
PART1　等差数列とその和
PART2　等比数列とその和
PART3　等差数列と等比数列

第２講　和の記号 Σ，階差数列
PART1　和の記号 Σ とその性質
PART2　階差数列と一般項，和と一般項
PART3　さまざまな数列の和

第３講　群数列，漸化式
PART1　群数列として考える
PART2　漸化式
PART3　連立漸化式

第４講　数学的帰納法
PART1　数学的帰納法による証明
PART2　数学的帰納法による不等式の証明
PART3　漸化式と数学的帰納法

第２章　統計的な推測

第５講　確率分布
PART1　二項分布の期待値と分散
PART2　連続型確率変数の期待値と標準偏差
PART3　二項分布の正規分布による近似

第６講　統計的な推測
PART1　母平均の推定
PART2　母比率の推定
PART3　仮説検定

第３章　平面ベクトル

第７講　平面上のベクトル，ベクトルの成分表示

PART1　ベクトルの分解

PART2　ベクトルの成分と平行，座標と成分表示

PART3　ベクトルの成分と大きさ，分解

第８講　ベクトルの内積

PART1　ベクトルの内積

PART2　ベクトルの内積と成分，ベクトルのなす角

PART3　ベクトルの大きさと内積

第９講　位置ベクトル

PART1　位置ベクトル

PART2　分点を表す位置ベクトル

PART3　共線条件

第10講　ベクトルと平面図形

PART1　交点の位置ベクトル

PART2　正多角形

PART3　三角形の面積

第11講　ベクトル方程式

PART1　直線のベクトル方程式

PART2　円のベクトル方程式

PART3　ベクトルの終点の存在範囲

第４章　空間ベクトル

第12講　空間のベクトル

PART1　空間の座標

PART2　空間ベクトルの内積

PART3　三角形の面積，２つのベクトルに垂直な単位ベクトル

第13講　空間図形とベクトル

PART1　位置ベクトル

PART2　共線条件

PART3　共面条件

第14講　空間ベクトルの様々な問題，空間座標における図形

PART1　直線と平面の交点

PART2　直線と平面の垂直

PART3　ベクトル方程式

講座の受講の仕方

ここでは，効果的な講座の受講の仕方についてお伝えします。講座は大きく「テキスト」「講義動画」「解答」に分かれています。この３つを効果的に使い，実力をつけていきましょう。

①　テキストについて

この講座のテキストは，講ごとに３つの PART（セクション）に分かれています。

各 PART は，次のような項目で構成されています。

「講義問題」（1，2など）

⇒　その PART で学ぶべき内容を含んだ問題。

PART によっては，1[1]，1[2]のように分かれている場合もあります。

「Point Pickup」

⇒　「講義問題」を解くために必要な知識・技能や考え方，方針を整理

「確認問題」

⇒　「講義問題」で学んだことを確認するための問題

「講義問題」「Point Pickup」については，「動画」で解説を行います。「講義問題」の予習は必要ありませんが，あらかじめ自分で解けるところまで解いてから，「動画」を見ても構いません。

②　講義動画について

受講の準備ができましたら，テキストと筆記用具を手元におき，動画を再生してください。そして，真剣に受講して，先生がこの動画を通じて何を伝えたいのかを感じ取ってください。

各講に含まれる PART 内の動画は，１つまたは複数のチャプターに分かれています。

（例）　第３講　群数列，漸化式

PART1　群数列として考える　…　**【講義問題1】**

PART2　漸化式　…　**【講義問題2[1]】・【講義問題2[2]】**

それぞれの PART における主な受講の流れを説明します。

(1)　【講義問題】のチャプターで，講義問題を解く上で必要な知識，用語，公式等を「Point Pickup」を交えながら説明します。その後，講義問題を解説していきます。それぞれの問題が，どのようにして解答に至るかを，そのプロセスも含めて動画でじっくり学んでください。途中で動画を一時停止しながら，途中計算等をテキストやノートに書

いていただいて構いませんが，大切なのは集中して授業を受講することです。「別冊解答」には，講義問題の解答解説が掲載されておりますので，動画の途中計算をすべて書き写す必要はありません。書くことに集中するのではなく，講師の言葉一つひとつにしっかりと耳を傾けてください。

⑵　解説された講義問題を，何も見ずに自分で解いてみましょう。途中で手が止まってしまった場合は，自分で書いた途中計算や別冊解答を参照し，また必要に応じて講義問題の動画を見直し，どこに手が止まった原因があったのかを振り返り，その続きからまた解き進めてみましょう。最後まで解ききったら，自分で書いた解答を最初から最後まで読み，その流れを把握することをオススメいたします。

各 PART の学習の流れを，今一度確認してみましょう。

「講義問題＆ Point Pickup を通じて学ぶ」→「自分で問題を解く」

1 つの PART でおよそ 15 分～ 30 分程度の受講時間となります。

各講に含まれる３つの PART の受講が終了すると，その講が終了します。時間がない時は，PART 単位の受講でも構いません。また，週末にまとめて 1 講分受講してもよいでしょう。

大切なのは

- **「新しい知識や考え方，その使い方や場面を知って，思考の幅を広げる」**
- **「講師が伝えたこと」を「自分で他の人に伝えられるようにする」**
- **「問題が解けるようになることがゴールではなく，なぜそう解くのかを学ぶ」**

という気持ちで受講することです。

動画で学ぶことに慣れていない人や，応用問題から学んだ経験が少ない人は，最初は「授業が速い！」と感じるかもしれません。ですが，安心してください。この講座は，好きなところで動画を停止できます。「ん？」と思ったら止めて，いま伝えられたことがどういう意味をもつのかを考えること，必要なら戻って何度も再生すること。焦る必要はありません。そして，講座の受講を進めていくうちに，感じ取り，表現できるスキルが向上することで，一度で聞き取れる，感じ取れる内容が増えていくでしょう。

もう 1 つ大切なこと，それは

- **「やっぱり自分はできない」は厳禁！**

だと言うことです。あきらめず，何度でもチャレンジすること。あなたには，あなたがまだ気づいていないかもしれない，「理解する力」が必ずあります。

③　復習について

その日の動画の受講が完了したら

・この講(PART)から何を知ったか，何を学んだか

を思い浮かべてみましょう。必要に応じてテキストをもう一度見直してみましょう。

また，後日，講義問題をもう一度解くことで，

・このPARTを受講して何ができるようになったか

を確かめてみましょう。もし解法が全然思いつかない，すっかり忘れてしまった，という場合は，まずはノートや別冊解答を，それでも思い出せない場合は動画を見直してみましょう。学んだ記憶がよみがえるはずです。

・「復習することで，学びを実感し，学びを自分のものにする」

という気持ちを忘れないようにしましょう。

④　確認問題について

①～③が終わると，自分がそのPARTの内容を本当に理解しているのかを，別の問題で確かめたくなるはずです。各PARTの終わりに「**確認問題**」を用意してあります。講義問題と同様，そのPARTで学んだことを思い出しながら，自力で解いてみましょう。

・「問題を解くことで，知識を引き出し，それを活用する練習をする」

単なる反復練習ではなく，学んだことを思い出しながら，自覚しながら解く，それを忘れないでください。

以上を繰り返すことにより，飛躍的に理解が深まります。これは今後，数学B+C(ベクトル)を活用するための貴重な経験としてあなたに刻まれていきます。

受講を続ける上で大切なのは

・ペースを作り，守る

ことです。各PART，およそ15分～30分。それを，どの曜日のどの時間帯に何PART(何講)受講するのかを決めるとよいでしょう。そして，決めた曜日の決めた時間に，確実に受講する習慣を身につけましょう。あなたが学校で時間割に沿って授業を受けるのと同じように，まずはあなたのスケジュールに『スタディサプリ』を受講する時間，数学B+C(べ

クトル)と本気で向き合う時間，これを組みこんでください。学校の宿題等，何があっても，決めたペースを守ることを心がけ，できない理由を作らないこと。それを愚直なまでに繰り返すことで，確実な「理解力向上」「実力向上」，そしてそれを実現している自分の姿があることに気づき，それが「自信」につながります。

この「高１・高２ハイレベル数学B+C(ベクトル)」は，これまでの学習や問題演習で培った知識・技能を活用する方法や場面を経験するための講座ですが，ご紹介できているのはその方法や場面のほんの一部となります。受講後は，**「高１・高２ トップレベル数学ⅠAⅡB+C(ベクトル)」**に進んでみてください。自分のもっている知識に，さらにこんな使い方があるのか，という気づきが得られ，その気づきにより，もっとできることを増やしたい，活用の幅を広げたい，そう思うはずです。それこそが，無限に拡がる数学B+C(ベクトル)の世界への第一歩を踏み出した瞬間です。

[MEMO]

[MEMO]

第 1 講　等差数列，等比数列

PART1　等差数列とその和

1　第 10 項が 230，第 25 項が -220 である等差数列 $\{a_n\}$ の初項から第 n 項までの和を S_n とする。

(1)　一般項 a_n，和 S_n を求めよ。

(2)　S_n の最大値を求めよ。

(3)　$|S_n|$ の最小値を求めよ。

Point Pickup

初項 a，公差 d の等差数列の一般項は $a_n=a+(n-1)d$

初項 a，公差 d，末項 l，項数 n の等差数列の和は $S_n=\dfrac{1}{2}n(a+l)=\dfrac{1}{2}n\{2a+(n-1)d\}$

初項 a が正，公差 d が負である等差数列の和の最大値は，正の項の総和である。

第 1 講　PART1　確認問題

1　第 5 項が 31，第 20 項が -29 である等差数列 $\{a_n\}$ の初項から第 n 項までの和を S_n とする。

(1)　一般項 a_n，和 S_n を求めよ。

$a_n =$ [アイ] $n +$ [ウエ]

$S_n =$ [オ]

[[オ] の選択肢]

① $\dfrac{n}{2}(49-2n)$　　② $n(49-2n)$

③ $\dfrac{n}{2}(61-4n)$　　④ $n(61-4n)$

⑤ $\dfrac{n}{2}(98-n)$　　⑥ $n(98-n)$

(2)　S_n の最大値を求めよ。

[カキク]

(3)　$|S_n|$ の最小値を求めよ。

[ケコ]

第 1 講　等差数列，等比数列

PART1　等差数列とその和

1　第 10 項が 230，第 25 項が -220 である等差数列 $\{a_n\}$ の初項から第 n 項までの和を S_n とする。

(1)　一般項 a_n，和 S_n を求めよ。

(2)　S_n の最大値を求めよ。

(3)　$|S_n|$ の最小値を求めよ。

(1)　初項を a，公差を d とおくと，$a_n = a+(n-1)d$

$a_{10} = 230$，$a_{25} = -220$ より

$$\begin{cases} a+9d = 230 \\ a+24d = -220 \end{cases}$$

よって　$a = 500$，$d = -30$

よって，一般項は $a_n = 500+(n-1)\cdot(-30) = -30n+530$

$$S_n = \frac{n}{2}\{2\cdot 500+(n-1)\cdot(-30)\} = \frac{n}{2}(1030-30n) = 5n(103-3n)$$

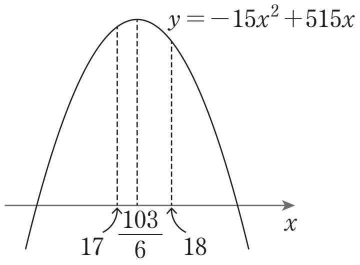
(2)　$a_n < 0$ とすると $-30n+530 < 0$　　$n > \dfrac{53}{3} = 17.6\cdots\cdots$

よって，$1 \leqq n \leqq 17$ のとき $a_n > 0$，$n \geqq 18$ のとき $a_n < 0$ であるから，

S_n は $n = 17$ のとき最大値 $S_{17} = 5\cdot 17\cdot(103-3\cdot 17) = 4420$ をとる。

（別解）

$$S_n = -15n^2+515n = -15\left(n-\frac{103}{6}\right)^2+15\cdot\left(\frac{103}{6}\right)^2$$



よって，$\dfrac{103}{6} = 17.1\cdots\cdots$ に最も近い自然数 $n = 17$

のとき，S_n は最大値

$$S_{17} = 5\cdot 17\cdot(103-3\cdot 17) = 4420$$

をとる。

(3)　$S_n=0$ とすると　$5n(103-3n)=0$

$$\frac{103}{3}=34.3\cdots\cdots$$

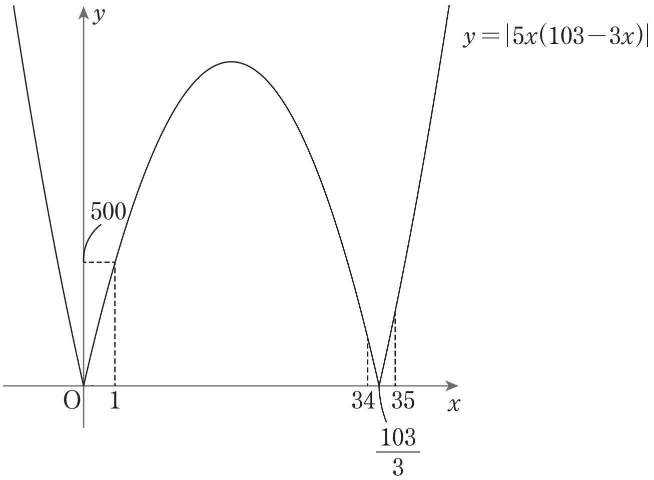
より，n は自然数であるから最小値の候補は $|S_1|$，$|S_{34}|$，$|S_{35}|$

$$|S_1|=|500|=500$$

$$|S_{34}|=|5\cdot34(103-3\cdot34)|=|170|=170$$

$$|S_{35}|=|5\cdot35(103-3\cdot35)|=|-350|=350$$

したがって，$n=34$ のとき，$|S_n|$ は最小値 170 をとる。



第 1 講　PART1　確認問題 解答

1 **[正解]** アイ：-4，ウエ：51，オ：②，
カキク：300，ケコ：24

[解説]

(1)　初項を a，公差を d とおくと

$$a_n = a + (n-1)d$$ [A]

$a_5 = 31$，$a_{20} = -29$ より

$$\begin{cases} a + 4d = 31 \\ a + 19d = -29 \end{cases}$$

ゆえに　$a = 47$，$d = -4$

よって，一般項は

$$a_n = 47 + (n-1)\cdot(-4) = \boldsymbol{-4n + 51}$$

和は

$$S_n = \frac{n}{2}\{2\cdot 47 + (n-1)\cdot(-4)\}$$ [B]

$$= \frac{n}{2}(98 - 4n) = \boldsymbol{n(49 - 2n)}$$

(2)　$a_n < 0$ とすると　$-4n + 51 < 0$

$$n > \frac{51}{4} = 12.75$$

よって，$1 \leqq n \leqq 12$ のとき $a_n > 0$，$n \geqq 13$ のとき $a_n < 0$ であるから，S_n は $n = 12$ のとき最大値

$$S_{12} = 12(49 - 2\cdot 12) = \boldsymbol{300}$$ [C]

をとる。

（別解）

$$S_n = -2n^2 + 49n$$

$$= -2\left(n - \frac{49}{4}\right)^2 + 2\cdot\left(\frac{49}{4}\right)^2$$

よって，$\frac{49}{4} = 12.25$ に最も近い自然数 $n = 12$

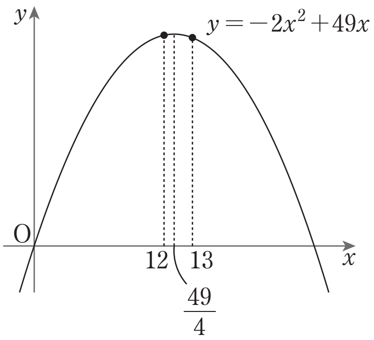
［A］　初項 a，公差 d の等差数列の一般項は
$a_n = a + (n-1)d$

［B］　初項 a，公差 d，末項 l，項数 n の等差数列の和は
$S_n = \frac{1}{2}n(a + l)$
$= \frac{1}{2}n\{2a + (n-1)d\}$

［C］　初項 a が正，公差 d が負である等差数列の和の最大値は，正の項の総和である。

のとき，S_n は最大値

$S_{12}=12(49-2\cdot12)=\mathbf{300}$ をとる。



(3)　$S_n=0$ とすると　$n(49-2n)=0$

0 または $\dfrac{49}{2}=24.5$ に近い自然数を考えると

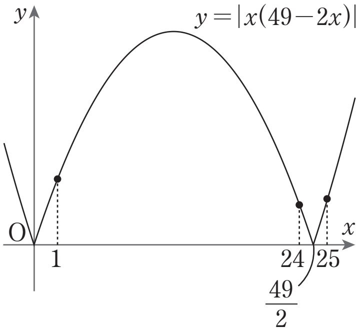
$n=1,\ 24,\ 25$

よって，最小値の候補は　$|S_1|,\ |S_{24}|,\ |S_{25}|$

$|S_1|=|47|=47$

$|S_{24}|=|24(49-2\cdot24)|=|24|=24$

$|S_{25}|=|25(49-2\cdot25)|=|-25|=25$

したがって，$n=24$ のとき，$|S_n|$ は最小値 **24**

をとる。